

情報共有資料

目次	
1. ワークショップの目的と成果	2
2. 複合災害による被害想定	5
3. 本日のワークショップの検討手順	7

平成27年 8月29日

1

水害に強いまちづくりWSの目的と成果

目的

本ワークショップは、土器川において堤防決壊等を伴う大規模災害が発生した際の避難行動等(タイムライン)に関する議論を行い、今後の自助(住民)・共助(地域コミュニティ)・公助(行政)の課題等を抽出することで、住民の命を守るための「水害に強いまちづくり」に繋げていくもの。

ワークショップ(3回)における成果

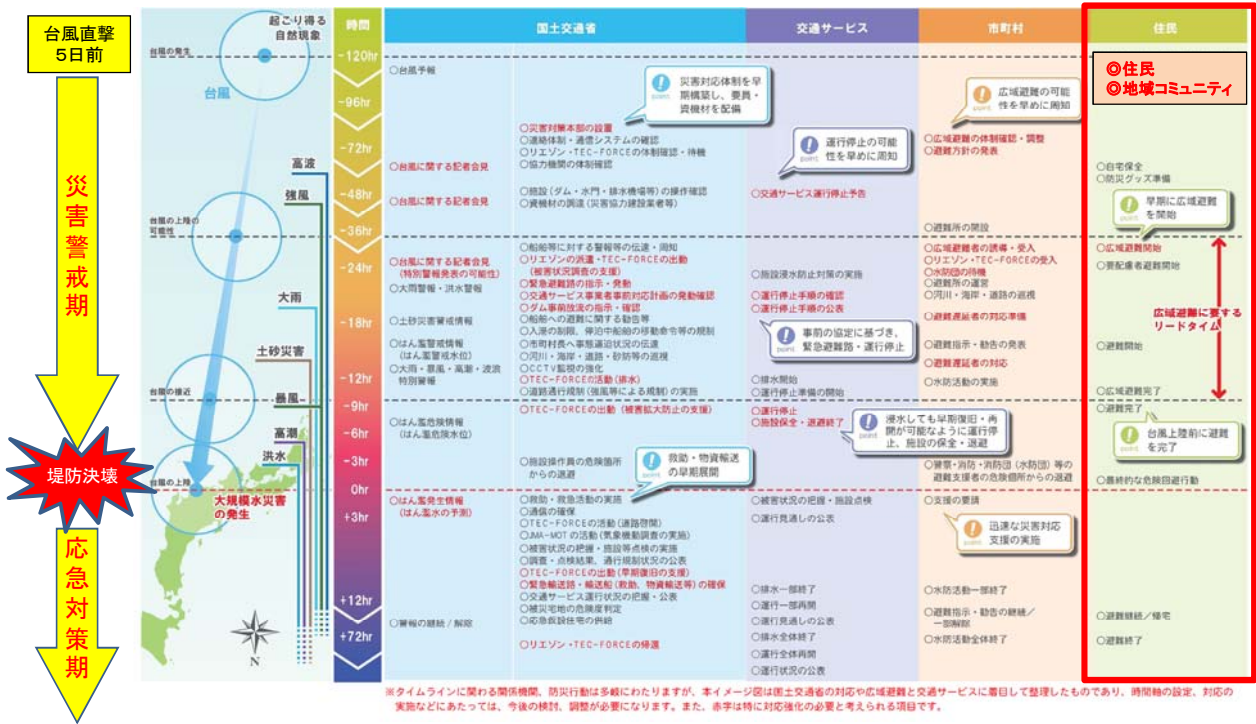
- ①住民目線による「タイムライン(台風接近～避難完了まで)」の作成
- ②“災害に強いまちづくり”のための今後の取組内容及び課題の整理

- ◎自助(住民)
- ◎共助(地域コミュニティ)
- ◎公助(行政)

2

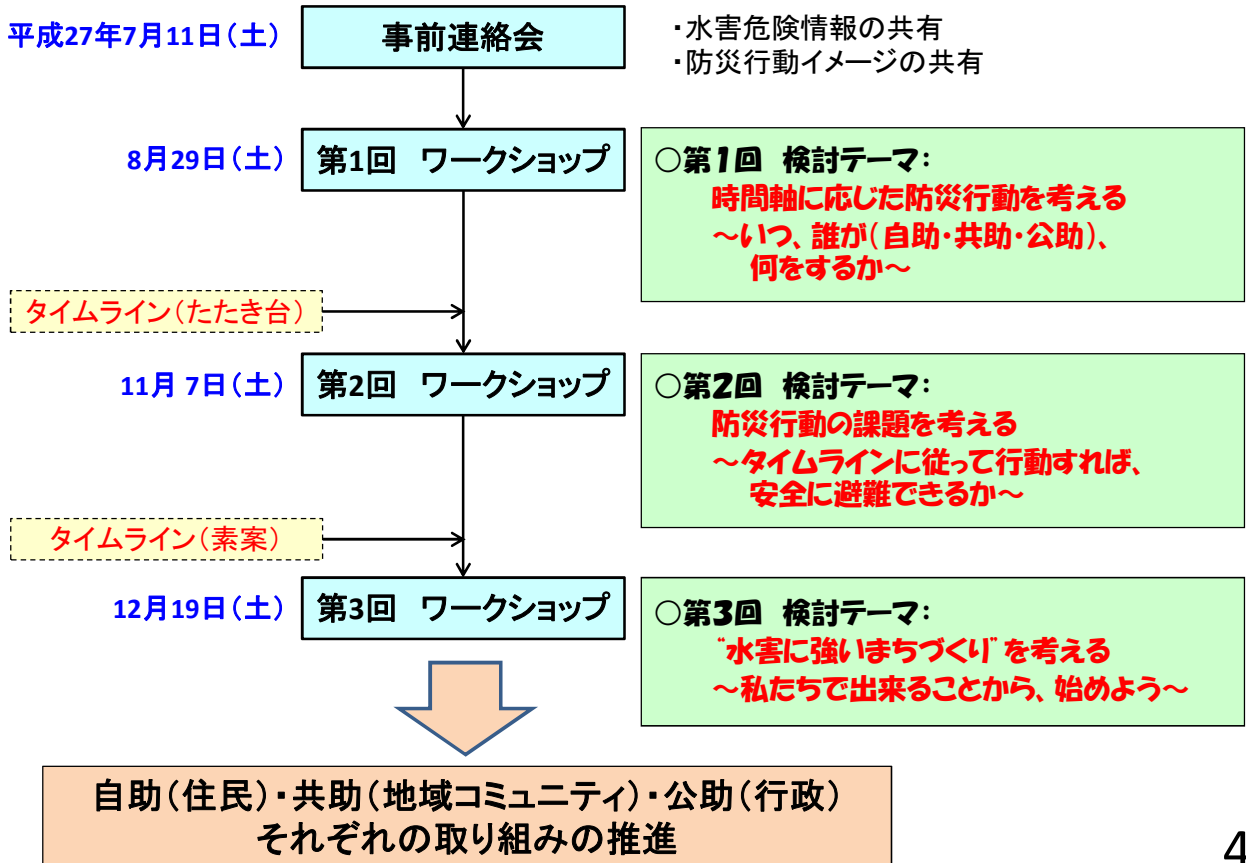
タイムライン(防災行動計画)とは

- タイムラインを構成する三つの要素:「何時(行動時刻)」、「誰が(組織・主体)」、「何を(防災行動)」
- 大規模水災害の発生前から各主体(住民を含む)が迅速で的確な対応をとるためには、各主体協働による時間軸に沿ったタイムラインを活用した取り組みを行うことが重要。



3

ワークショップの進め方

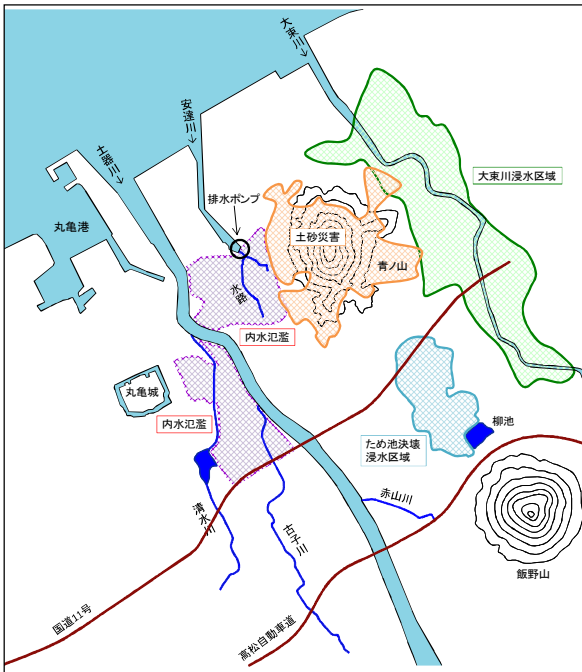


4

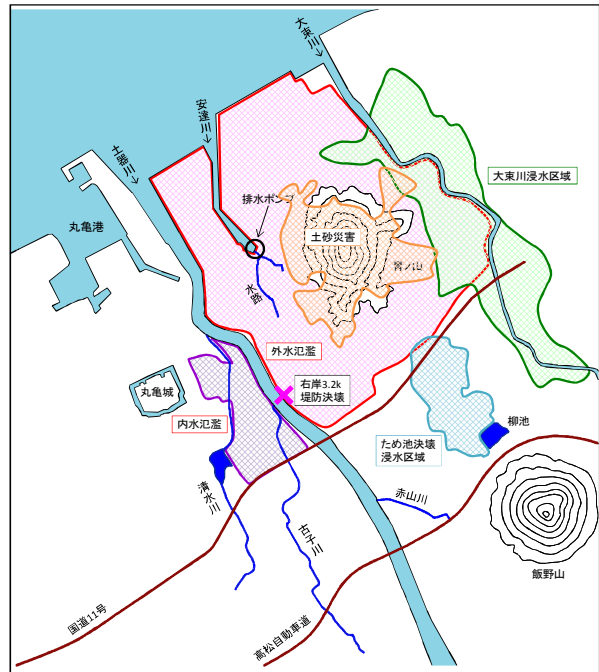
河川氾濫(複合災害)の時系列イメージ

- ◆土器川の堤防が決壊するほどの大規模な降雨が継続した場合、土器川堤防決壊前にはすでに各種災害(中小河川氾濫、内水氾濫、土砂災害、ため池氾濫)の発生が想定される。
- ◆各種被害想定(香川県公表)を組み合わせ合わせた複合災害を考慮した検討とする。

【土器川堤防決壊前の“各種災害”想定イメージ】

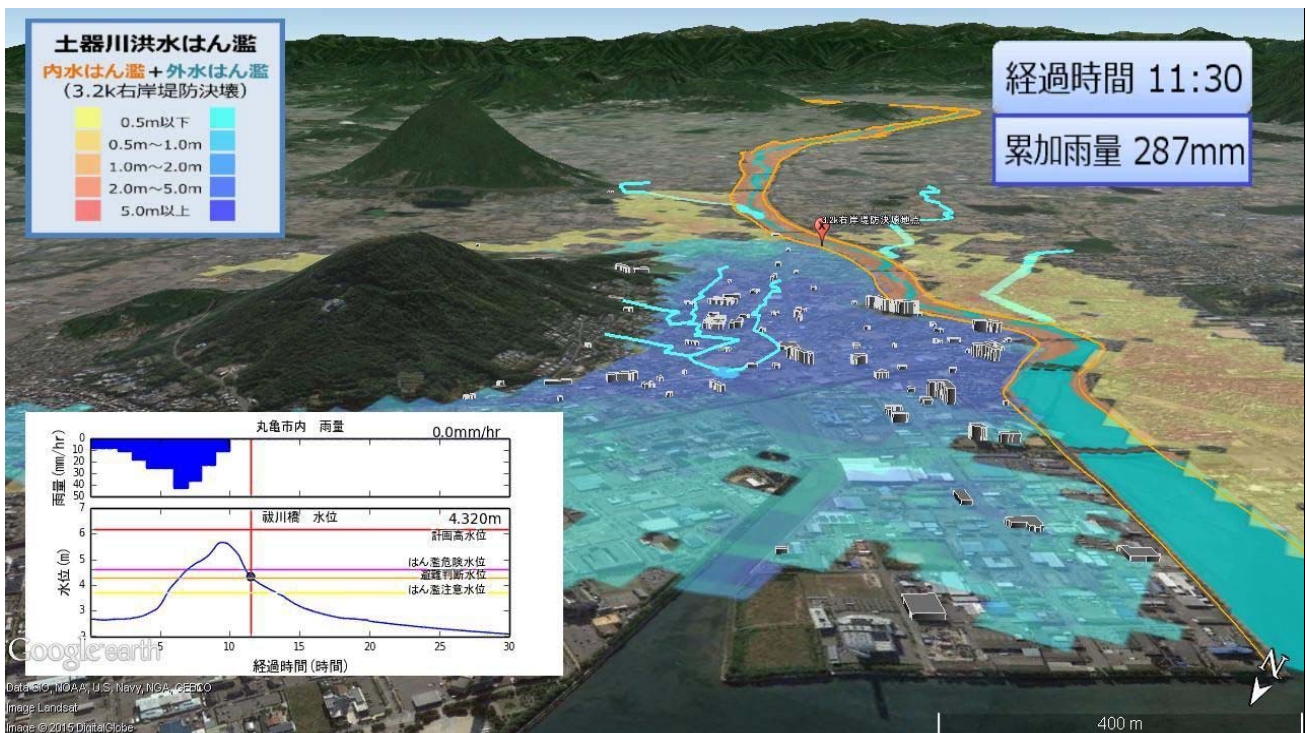


【土器川堤防決壊後の“外水氾濫+各種災害”想定イメージ】
(土器川右岸3.2k堤防決壊)



5

土器川洪水氾濫アニメーション(内水氾濫と河川氾濫)



6

本日のワークショップの検討手順

【検討一】 避難所、避難ルートの確認

～避難には、どれぐらい時間がかかるか～

- ① 自宅・職場 (居住地・勤務地シール)
- ② 避難所 (旗立てグッズ)

- ③ 避難ルート (透明シートにマーカーで記入)

- ④ 避難時間 (距離を計測)

【検討二】 大規模水害時の住民の防災行動シミュレーション

～いつ、誰が(自助・共助・公助)、何をするか～

① ステージの設定

<ステージ1>

金曜日 夕方(午後4時頃)

・台風接近、避難準備情報

<ステージ2>

金曜日 夜遅く(午後10時頃)

・内水被害発生、避難勧告

- ② 危険情報の提示 (台風・降雨・水位状況等)

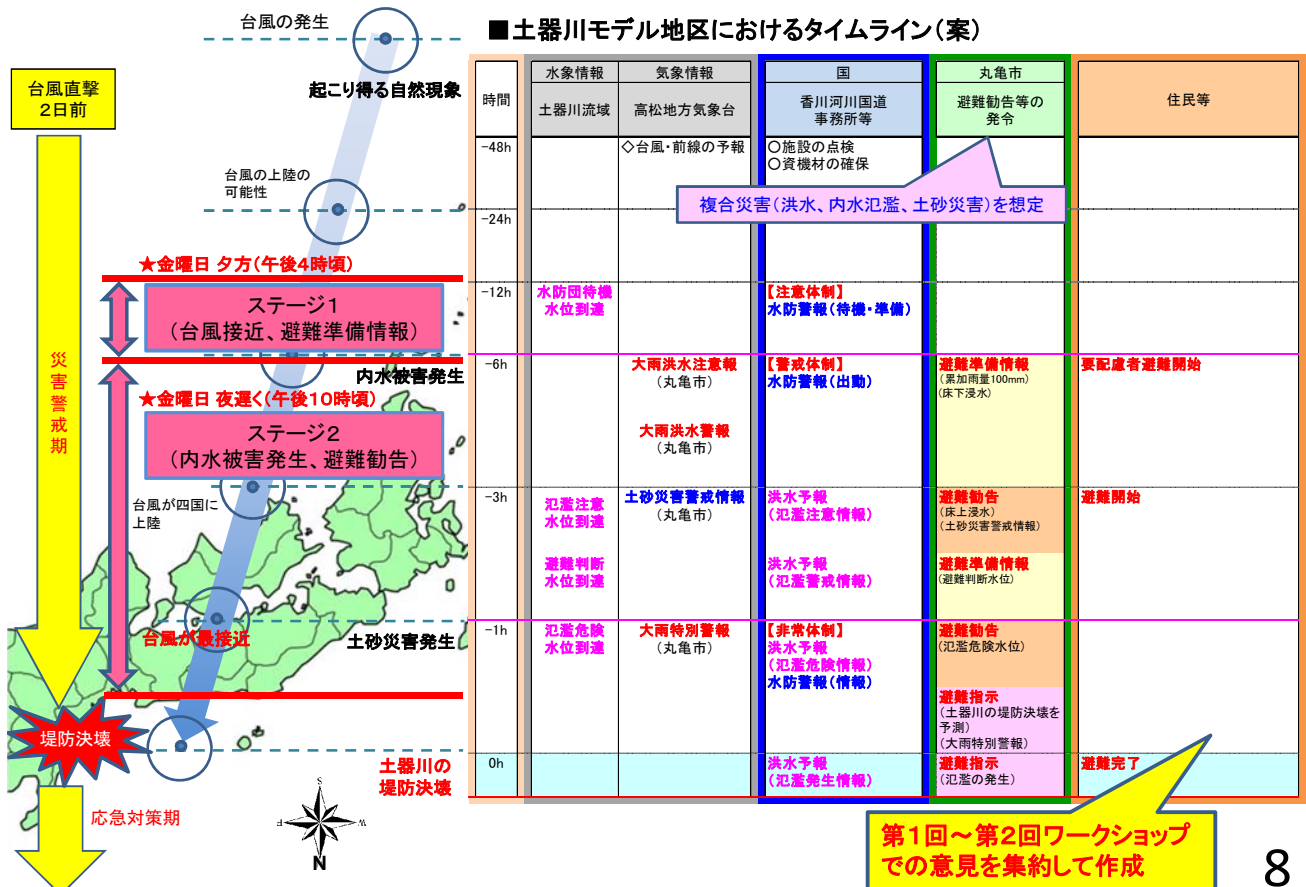
- ③ 防災行動の意見出し (意見カードに記入)

- ④ 各テーブルで意見の共有・分類 (模造紙に貼り出し、意見の読み上げ、補足意見の記入、キーワードの記入)

- ⑤ 全体で意見の共有 (グループ発表、ふり返り)

7

土器川モデル地区におけるタイムライン(案)



8